

下野國
中禪寺湖

りをやむる事なり、傳へいふ、諏訪神社は狐を眷屬とし給ふなり、狐は水を聞ものなれば、此神渡りは明神の使しめの狐の所爲なりとぞ、又諏訪に温泉ありて、諸人入湯する所なり、湖水の中にも温泉あり、常は知れず、只氷りたる時は湖中にて其温泉の湧いづる所ばかり氷らずして、氷に所々穴ありて湯氣のぼる、又下の諏訪の拜殿の板壁のふし穴より、上の諏訪の塔の影さし渡し一里を隔て、さし入る、又上の諏訪明神のみたらしのはよりは、四季ともに毎日少し計にても雨降らずといふことなし、又明神の廻廊の板敷釘を用ひず、人歩行するに音なし、其外不思議數あり、東海道にある天龍川は、其源此諏訪湖より流れ出る、小湖なれども底深く、魚鼈甚多くして、此邊利益ある水なり、

〔日光山志〕^四南湖 中禪寺の湖水と唱ふるものなり、第一の大湖にして、凡東西三里餘南北凡一里餘、又八功德池と名附ることは縁起にみえたり、凡山腹山趾に四拾八湖有となん聞る、されど其在所も定かに知れるものなし、大師の記文に載たるが如く、阿坤更有一大湖、幕計一千餘町云云、清潔なる冷水ゆゑ鱗蟲も生せず、一點の塵芥もなく、常に白波汀濱に湛へ、早年又は霖雨にも不耗不溢、そのかみ神護景雲元年、勝道上人遊覽せられしより、今も猶現然として奇觀なる大湖といふべし、

〔木曾路名所圖會〕^六補陀洛山中禪寺

日光より山路三里餘○中略

湖水長サ三里幅二里、あるひは一里半許の所もあり、四面に繁樹脩竹あつて、湖上を覆ふといへども、其落葉ひとつも水面に浮まず、底至て深けれども、魚鱗ひとつもすまず、都て此山中に大湖三つあり、其外小さき湖四十八湖あり、かゝる高山の顛に、數多湖水ある事奇異の靈地なり、

〔續古事談〕^四下野國二荒山ノ頂ニ湖アリ、廣サ千町バカリ、キヨクスメル事タグヒナシ、○下略

〔東國旅行談〕^四猪苗代之湖水

陸奥國
猪苗代湖